

「小児歯科臨床」は「接着」が「命」：“ウァーオ!! 子供の歯って真珠より綺麗”

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 展開医療科学講座 小児歯科学 細矢由美子



略歴

- 1973年 東京歯科大学卒業
- 1977年 東京歯科大学大学院歯学研究科(小児歯科学専攻)修了、歯学博士
- 1977年 東京歯科大学小児歯科学講座 助手
- 1978年 東京歯科大学小児歯科学講座 講師
- 1983年 長崎大学歯学部(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)小児歯科学講座 助教授
- 2000年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 小児歯科学 准教授
- 1995年 テキサス大学サンアントニオヘルスサイエンスセンター、歯学部、保存修復学・小児歯科学講座 客員助教授
- 1997年 文部省在外研究員、カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部、保存修復学講座、生体材料学部門 客員助教授
- 1997年 文部省在外研究員、テキサス大学サンアントニオヘルスサイエンスセンター、歯学部、保存修復学・小児歯科学講座 客員助教授
- 2007年 ブラジル カンピーナス大学歯学部大学院 客員教授

日本小児歯科学会認定 専門医指導医、日本歯科色彩学会常任理事、Society for Color and Appearance in Dentistry (SCAD) Asia-Pacific Regional Councilor、Brazilian Journal of Oral Sciences Editorial Board、Asia-Pacific Academy of Dentistry Journal Editorial Board、平成10年：日本小児歯科学会奨励賞、平成15年：日本歯科色彩学会優秀論文賞、原著論文及び単行図書：245編 (First author：205編)

小児歯科医として今年で40年目に突入した。この間に歯科臨床界のトピックスとなった機材として、レーザー、CT、インプラント、CAD/CAMなどが挙げられるが、身近な材料であり、日本が世界に誇れる接着性材料の進歩を無視する事はできない。

細矢らによる調査の結果、乳歯歯冠修復処置中でコンポジットレジン修復とコンポジットレジン冠が占める割合は、1973年度が20.1%、1982年度は43.0%、1994年度は61.7%と年々増加がみられ、永久歯については、1994年度は77.9%であった。多くの種類の審美的接着性歯冠修復材が市販されている現在、歯冠修復処置中で接着性歯冠修復処置法の占める割合は、さらに増加していると思われる。加えて、小児歯科臨床では、歯冠修復処置以外にも、シーラント、矯正用ブラケットや歯冠修復物の装着、外傷歯の固定など、幅広い領域で接着性材料が使用されている。小児歯科臨床に携わる者は、接着性材料に対する十分な知識と正しい使用法の習得が必用である。

歯質接着システムは、1980年代のtotal etching system (2-step)から1990年代はdentin bonding system (3-step)に移行し、1995年頃からself-etching system (2-step)とwet-bonding system (2-step)が主流となり、今世紀にはいとall-in-one systemが出現した。かような変遷の中で、切削エナメル質と非切削エナメル質、エナメル質と象牙質、齶蝕歯や石灰化不全歯と健全歯、乳歯と永久歯、幼若歯と成熟歯間の接着機構の差を考慮した材料と使用法の選択が求められる。また、正中離開歯や外傷破折歯などに対するlayeringテクニックなどの審美的歯冠修復処置や外傷などによる変色歯のwhitening処置など、美しく健康な笑顔への貢献も求められている。

国民の意識調査(「お口の事で満足していない事は?」2004年、GC社)の結果によると、歯の色(63.1%)が口臭(43.5%)や歯並び(41.4%)を抑え、1位であった。

私は乳歯の色彩について話すとき、「乳歯は神様が赤ちゃんに送った真珠のプレゼント」という表現を用いている。

はたして我々小児歯科医は、乳歯の美しさ、素晴らしさとその重要性をどこまで理解できているであろう。